

Title	理工学分野における産学連携
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2012
Jtitle	新版 窮理図解 No.10 (2012. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000010-0008

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

理工学分野における産学連携

かつては優れた科学者・技術者個人の努力によって、新しい概念や商品が生まれていました。しかし、現在は個人の時代は終わり、産学連携、産官学連携など共同での研究開発が盛んになっています。

この号に登場した能崎准教授は、現在、記録密度が1平方インチ当たり1テラビット(10¹²ビット)を超える次世代ハードディスクの実現に向けて企業と連携し、新しい記録方式の動作検証を行っています。量産されているハードディスク媒体を用いた動作テストでは、研究中の記録方式の有効性が確かめられています。そして今後は、より小さな磁気ビット記録が可能な

次世代記録媒体について、実験を進める予定です。

実現すれば、スーパーハイビジョン画像(解像度が現行フルHDの16倍)の長時間録画が可能な次世代レコーダの開発に弾みがつくだけでなく、さまざまな企業が膨大なデータの保存に利用しているデータセンターの小規模化・省電力化が期待できるので、注目を集めています。

能崎准教授は、「研究中の新しい記録方式を次世代ハードディスクの標準方式として普及させるためには、記録再生ヘッドだけでなく、記録媒体、信号処理技術の開発も必要です。今後は、これらの企業を巻き込んだ形で研究を行い、実用化を目指したいですね」と抱負を語っています。理工学部・理工学研究科では、こうし

た連携活動を推進するため、産官学連携の窓口として慶應義塾先端科学技術研究センター(KLL)を設置して、理工学研究の技術シーズの発信だけでなく、このケースのような研究者の実用化への思いと産業界の連携ニーズに基づいた共同研究プロジェクトを推進しています。

さらに、KEIO TECHNO-MALL(慶應科学技術展)や産学連携セミナーなど産業界との交流の場を設けており、これらのイベントをきっかけに、企業からの連携の申し入れがあり、新たな研究プロジェクトも誕生し、具体的な活動につながっています。

その成果として、2011年度には300件を超える産官学連携プロジェクトが実現しています。

理工学 Information

「イノベーション創出戦略マネジメント講座(ソニー寄附講座)公開シンポジウム2011 人類・社会の新たな発展を目指してⅢ」所 眞理雄(ソニーコンピュータサイエンス研究所会長)編 8月31日発売

<http://www.keio-up.co.jp/>

2009年に開始された、慶應義塾大学とソニー株式会社による次世代技術系人材育成協働プロジェクトによる連続公開シンポジウム「人類・社会の新たな発展を目指して」。2011年度に開催された全4回のシンポジウムをまとめた書籍化最終巻が刊行され、ついにシリーズが完結します。慶應義塾大学出版会ホームページからご注文いただけます。

今後のイベント

- 2012年10月19日(金) 第15回 KLL 産学連携セミナー
 - 2012年12月7日(金) 第13回 KEIO TECHNO-MALL
 - 2013年2月22日(金) 第16回 KLL 産学連携セミナー
- 詳細は順次、慶應義塾先端科学技術研究センター(KLL)のwebサイト(<http://www.kll.keio.ac.jp/>)にアップされます。

編集後記

2009年より発行している本誌も、はや10号となりました。今号から少しだけ変化があります。そのひとつは、研究者に何かを持ってもらった写真を表紙にすること。今回は、「スピン」にちなんで、地球ゴマを選びました。

撮影では、能崎准教授みずから、コマに糸を巻いてくれました。その姿は、一心にコマ遊びをする少年さながら。自然と雰囲気がやわらぎ、能崎准教授らしい、リラックスしたやさしい表情が撮れました。

能崎准教授は、私が抱いている本学理工学部の研究者たちのイメージそのままのような気がします。まじめで温厚で、教育も研究も一生懸命。いつも研究室にいるから、電話するとすぐに出る。締め切りを守るけれどあんまり忙しいと忘れてしまい、督促されてあわてて対応…。

既刊10号に、12人の研究者が登場しました。個性も研究内容もばらばらですが、集まるとやはり、矢上キャンパスの風を感じます。ぜひ読み返して、風を身近に感じていただければ幸いです。「新版 窮理図解」は、これからも研究者の魅力的な素顔を紹介していきます。

(平良沙織)



慶應義塾大学出版会刊行

新版 窮理図解



No.10 2012 July

編集 新版窮理図解編集委員会
 写真 邑口京一郎
 デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
 編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
 発行者 青山藤詞郎
 発行 慶應義塾大学理工学部
 〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
 問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
 kyurizukai@info.keio.ac.jp
 問い合わせ先 (産学連携)
 kll-liaison@adst.keio.ac.jp
 web版 <http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>
 twitter <http://twitter.com/keiokyuri>
 facebook <http://www.facebook.com/keiokyuri>